



石背国造神社

延暦年間、坂上田村麿將軍が、当社に戦捷祈願して、靈験があつた。のち、戸上神社となつた。文應年間、長沼隆時、この山に城を築く時、豊町、戸隠大明神の社の地に遷したという。

諏訪神社は天文年間、会津の領主芦名氏の家臣、新国氏が長沼領主となつた時、信州信濃より諏訪大明神の分身を遷して一城の乾に神社を建て、建美名方命を祀つて城の守りとし、諏訪大明神と称した。

一説には、慶長年間、会津領主上杉氏の家臣、島津泰忠が信濃国より諏訪大明神を遷したともいう。長沼城破却のさい、社が荒れたので村人神靈を國造戸上神社に遷し、相殿とした。旧地を今も諏訪の入と呼んでいる。

元祿元年、社殿炎上したが、代官拓植伝兵衛が再建した。元祿十三年、松平頼隆の領地となり、代々の領主弊帛を奉奠した。

明治五年、郷社に昇格、八年に村社となつたが、十二年、再び郷社となつた。明治二十年、長沼大火に炎上、再建して、現在に至つた。

(「長沼名義考」より)